



発行所

一般社団法人 全日本木材市場連盟
編集・発行人 本柱 修
東京都区後楽1-7-12
電話 03(3818)2906
FAX 03(3818)2907
毎月1回1日発行
定価・年3,000円
(会員は会費に含まれています。)

「令和5年木材需給表」の公表

総需要量は減少、木材自給率は42.9%に増加、

林野庁は、このほど令和5年(2023年)の我が国の木材需給に関するデータを集約・整理した「令和5年木材需給表」を公表した。(以下の需要・供給量は丸太換算で表示。)

1 木材需要の概要

(1) 総需要
令和5年(2023年)における木材の総需要量は、79、853千m³で前年に比べ5、216千m³(6.1%)減少した。

その内訳は、用材が59、369千m³で前年に比べ8、125千m³(12.0%)の減少、燃料材が20、293千m³で前年に比べ2、928千m³(16.9%)の増加、しいたけ原木が191千m³で前年に比べ18千m³(8.6%)の減少となった。

(2) 国内消費

国内消費量は、76、458千m³で前年に比べ5、569千m³(6.8%)減少した。その内訳は、用材が55、979千m³

で前年に比べ8、478千m³(13.2%)の減少、燃料材が20、288千m³で前年に比べ2、927千m³(16.9%)の増加、しいたけ原木が191千m³で前年に比べ18千m³(8.6%)の減少となった。

(3) 輸出

輸出量は、3、395千m³で前年に比べ353千m³(11.6%)増加した。

その内訳は、丸太が1、595千m³(20.5%)で前年に比べ271千m³の増加、木材パルプ・チップ等が1、371千m³(14.5%)で前年に比べ174千m³の増加であった。

2 木材供給の概要

(1) 総供給

令和5年(2023年)における木材の総供給量は、79、853千m³で前年に比べ5、216千m³(6.1%)減少した。

その内訳は、用材が59、369千m³で前年に比べ8、125千m³(12.0%)の減少、燃料材が20、293千m³で前年に比べ2、928千m³(16.9%)の増加、しいたけ原木が191千m³で前年に比べ18千m³(8.6%)の減少であった。

(2) 国内生産

令和5年の木材需要(供給)量

単位:千m³

Table with 7 columns: 用途, 製材用材, 合板用材, パルプ・チップ用材, その他用材, 燃料材, しいたけ原木, 総計. Rows include 国産材, 輸入丸太, 輸入製品, 合計.

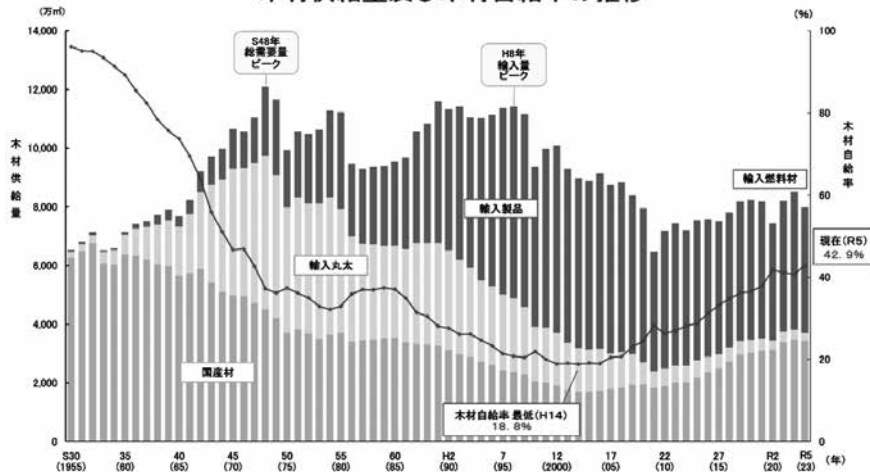
注)「その他用材」は、枕木、電柱、くい丸太、足場丸太等である。

国内生産量は、34、259千m³で前年に比べ334千m³(1.0%)減少した。その内訳は、用材が22、930千m³で前年に比べ1、214千m³(5.0%)の減少、燃料材が11、137千m³で前年に比べ898千m³(8.8%)の増加、しいたけ原木が191千m³で前年に比べ18千m³(8.6%)の減少であった。

(3) 輸入

輸入量は、45、594千m³で前年に比べ4、883千m³(9.7%)減少した。

木材供給量及び木材自給率の推移



その内訳は、用材が36、438千m³で前年に比べ6、913千m³(15.9%)の減少、燃料材が9、156千m³で前年に比べ2、030千m³(28.5%)の増加であった。
3 木材自給率
建築用材等の自給率は、国内生産の減少よりも輸入量の減少が大きかったことにより、55.3%で前年に比べ5.8ポイント上昇した。非建築用材等の自給率は、燃料材の輸入が増加したものの、パルプ・チップ用材の国内生産の増加等に



会場の様子

より、35・7%で前年に比べ1・5ポイント上昇した。このため総数での自給率は42・9%で前年に比べ2・2ポイント上昇した。

■第41回木と暮らしのふれあい展開催

東京都と(社)東京都木材団体連合会(庄司良雄会長)は10月5日(土)・6日(日)、都内江東区の木場公園イベント広場で「木と暮らしのふれあい展」を開催した。今年は「森を育てたい。だから木を使おう。受け継ごう。日本の文化、木の住まい。」がテーマ。初日の5日は雨天のため開会の式典は中止され、近藤藤嗣実行委員長(新東京木材商業協同組合理事長)の開会宣言で開会した。イベント会場では、16の参加団体によるテントが張られ、多数の参加者が木に触れて作る木工教室や木製品・木製品の即売などが行われたほか、オリーブ等の苗木配布

が行われ順番待ちする親子連れでにぎわった。6日は天候も回復し、ステージでは太鼓演奏などが披露され、活気あふれるイベントとなった。東京都木材市場買方組合連合会と東京木材市場協会は協同で木製の踏み台づくりやマイ箸づくりの体験、まな板の即売等を行った。

■第69回全国優良木材展示会開催東京木材市場

(株)ウッディコイケに東京都知事賞
東京都木材団体連合会(庄司良雄会長)と東京木材市場協会(市川英治会長)は10月3日(木)に、東京木材市場(株)(市川英治社長)において全国優良木材展示会を開催した。

開会に当たり、庄司良雄都木連会長は、昭和31年に開始された全優展の歴史、木材のリラックス効果に触れ、木力が広く世間に浸透し、全優展を通じて木材需要が拡大することを期待する。本日は全国各地から出品された優良材の盛大な買上げをお願いすると挨拶した。

前日10月2日(水)に行われた審査会においては、東京都木材団体連合会の岩間浩一事務局長の指導により14社から出品された製材品について、「寸法、技術、表示・結束、乾燥、出荷実績」等の項目について厳正な審査が行われ、特に品質に優れ、製材技術が高い製品が選ばれた。表彰受賞者は以下のとおり。

- ① 都知事賞・(株)ウッディコイケ
- ② 都産業労働局長賞・東北木材(株)、(有)高林材木店、影山木材(株)、協和木材(株)、(株)佐川産業
- ③ 都木連会長賞・(株)杏澤製材所、二

宮木材(株)、(有)東部産業、(株)野上製材所、(有)菊池製材所
表彰式典の後は活発なセリが行われた。



式典の様子

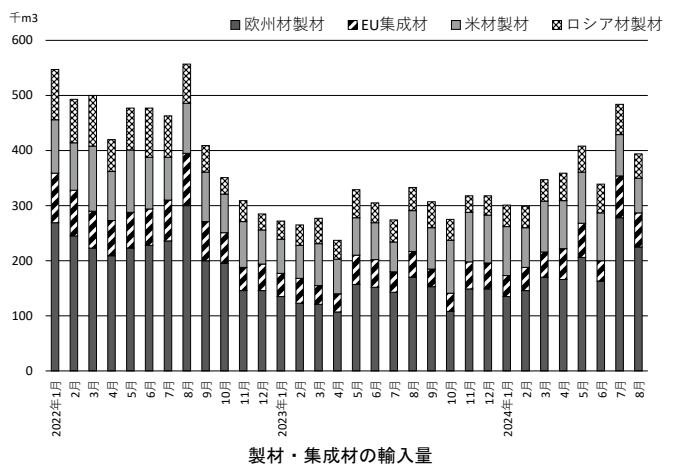
■製材・集成材の輸入量

欧州・北米・ロシアからの製材・集成材の輸入量は、昨年は一昨年から大幅に減少したが、本年に入り増加傾向が続いている。本年1月から8月までの総輸入量は、2,931千m³で前年比28%の増加となっている。地域別には、欧州からの製材輸入量が1,489千m³(前年同期比34%増)、北米からの輸入量が658千m³(前年同期比26%増)、ロシアから365千m³(前年同期比14%増)、EUからの集成材輸入量が419千m³(前年同期比23%増)であった。(出展・財務省貿易統計、林野庁・木材輸入実績)

■東京湾針葉樹製品在庫増加傾向続く

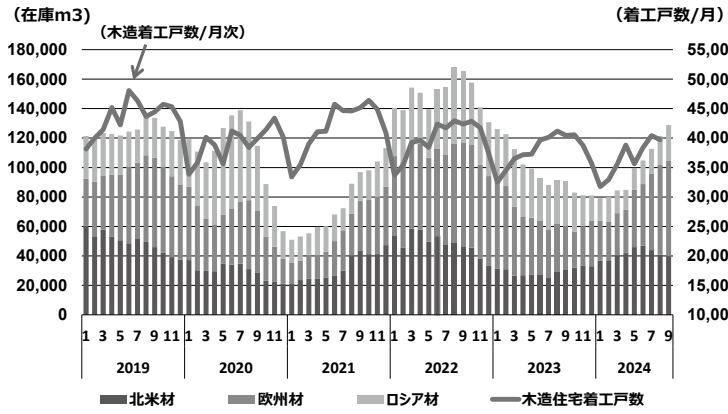
東京湾の輸入針葉樹製品(製材と集成材)の在庫量は、昨年は減少が続いたが、今年に入り増加に転じ、9月まで増加傾向が続いている。日本木材輸入協会(東京江東区)のとりまとめによると、9月末の在庫量は12万8千8百m³となった。9月末の樹種別の在庫量をみると、米加材が3万9千9百m³が減少(前月比9百m³減)したのに対し、欧州材が6万4千9百m³(前月比3千7百m³増)、ロシア材が2万4千4百m³(前月比4千6百m³増)と増加した。

木造住宅の8月の新設着工戸数は3万9千7百戸(対前年同月比96・5%)、今年の1月から8月の着工戸数の累計は



29万3千3百戸(対前年比98・1%)と着工戸数が伸び悩んでいることから、製品在庫の増加傾向が続いている。

東京湾針葉樹製品在庫と新設木造住宅着工戸数



国有林が立木販売結果を公表

国有林野事業では、民有林における適切な立木取引に資する取組として、立木販売結果の公表を開始した。主伐箇所

の立木販売物件を対象とし、箇所ごとに入札金額等の入札結果と樹種・直径・材積等の物件情報を一体として、令和5年と令和6年度の結果について、月ごと、森林管理署ごとに公表した。

全国の森林管理局の販売結果は次の林野庁ウェブサイトにて公表されている。

https://www.rinya.maff.go.jp/j/soumu/hanbai/hanbaikakkah.html

令和5年度の立木販売公表結果

(主要樹種スギ88件)

Table with 3 columns: Item, Average Value, and Minimum-Maximum Value. Rows include volume per unit price, area per unit price, and volume per area.

注) 1. 試験設定のある人工林は除く。 2. 物件材積の過半をスギが占めるものを対象とする。 3. 「材積当たり単価とは、立木材積当たりの単価のことを指し、利用材積あたりの単価とは異なる。(例えば、利用率75%で推計すると、平均値は4,000円程度となる。)

出展) 林産物に関するマンスリーレポート モクレポ 令和6年10月 No.37 林野庁

国土交通省住宅局令和7年度予算概算要求

国土交通省は、令和7年度予算の概算要求で一般会計7兆330億円(前年比1・18倍)、東日本大震災復興特別会計617億円(前年比1・33倍)要求した。概算要求は、国民の安全・安心の確保、持続的な経済成長の実現、個性をいかした地域づくりと分散型国づくりを柱として構成された。このうち住宅局関係の概算要求は2,088億円で、以下の施策に重点的に取り組むこととしている。

1. 住まい・くらしの安全確保、良好な市街地環境の整備

令和6年能登半島地震の被害を踏まえ、防災・減災対策を強化する。

- 住宅・建築物の防災対策にかかる緊急支援
住宅の耐震化支援等を緊急的に強化し、事前防災を加速
木造密集地域における耐震化支援の強化
緊急輸送路沿道のテナントビル等の耐震化支援の強化
公営住宅の旧耐震ストック等の除却支援の強化
災害へのレジリエンスの向上
防災拠点のレジリエンス向上支援の強化
住宅のレジリエンス向上のモデル的取組への支援
既存ストックの有効活用と流通市場の形成
老朽マンション対策をはじめ、適正な維持管理等を通じた既存ストックの長寿命化と更新を促進することにより良質な住宅ストックの形成を推進する。

- 住宅・建築物における脱炭素対策等
2050年カーボンニュートラルの実現に向け、住宅・建築物分野の脱炭素化を促進するため、省エネ対策に加え、建築物のライフサイクルカーボン削減に向けた取組を推進する。
省エネ性能向上の促進
既存住宅・建築物ストックの省エネリフォームの促進
公営住宅・UR賃貸住宅の省エネリフォームへの支援
長期優良住宅化リフォームへの支援
既存住宅・建築物の省エネリフォームへの支援
新築住宅・建築物の省エネ性能の引上げ
ライフサイクルカーボン算定・評価の推進
ライフサイクルカーボン削減に向けた取組の推進
BIMと連携したライフサイクルカーボンの算定・評価(LCA)等への支援
木材利用の促進
木造建築物等の規制合理化に向けた基準整備
優良な木造建築物等の整備への支援
誰もが安心して暮らせる多様な住まいの確保
誰もが安心して暮らせる多様な住まいの確保に向け、子育て世帯等が安心して暮らせる住まいの実現や住宅セーフティネット機能の強化を図る。

○大規模公的賃貸住宅の建替えと併せた子育て支援施設の整備への支援

○公営住宅ストック等の子育て活用

・子育て世帯向け改修への支援

○民間住宅ストックの子育て活用

・子育て世帯向け共同住宅への支援

2. 住まいのセーフティネット

○居住サポート住宅を含むセーフティネット住宅における家賃債務保証料等の低廉化支援の強化

○居住支援法人等による居住支援活動への支援

3. バリアフリー

○既存建築物のバリアフリー改修等への支援

5. 住宅・建築分野のDX・生産性向上の推進等

社会全体のデジタル化に向け、住宅・建築分野におけるIT活用等の新技術実装等を進め、生産性の向上を目指す。主要事項

1. DX等の推進による生産性向上

○LCA算定等に必要な建築BIM導入の加速化

○IoT技術を活用した住宅の普及への支援

2. 建築行政手続等のDXの推進

○建築確認のオンライン化、建築BIMによる建築確認の推進

○空き家データベースシステムの整備

※令和7年度予算概算要求の詳細は以下の国土交通省ウェブサイトに掲載。

https://www.mlit.go.jp/page/kanb005_hy_003264.html

■木材アドバイザー資格の活用事例

全市連が平成23年度から実施してきた木材アドバイザー制度は、木材や木材利用について適切な助言ができる人材を養成することを目的としており、木材アドバイザー養成講習会を受講して有資格者となられた方は900名を超える。養成講習会を受講された多様な業種の有資格者からの声を要約して紹介したい。

○木材流通業 再生可能な木材に注目が集まる中、営業活動の中で木材の知識、保護活動や必要な対策といったことが話題になることがある。その際、木材アドバイザーの資格が信頼や信用を得るのに役立つ。顧客に対して木材に関する提案やアドバイスを行う際に、木材アドバイザーの資格を取得していることを伝えることで営業の質を上げることができた。講習会で得た知識は社内のOJTに活用できることが多い。今後とも人材育成や営業活動に利用したい。

○プレカット加工 木材アドバイザー資格取得後は、プレカットの構造部材の仕様決定等の打ち合わせの際に、先方の希望を踏まえつつも、強度、乾燥、普及、価格など様々な角度からアドバイスをし、決定していただけるようになった。また、設計士への対応では強度指定が多々あるが、得た知識によりスムーズに打ち合わせを進められるようになった。強度について既製品にないものを求められることもあるが、同強度以上の代替を提案するなど、対応力も向上したと感じている。

■木材アドバイザー養成講習会開催のご案内

全市連では、木材を取り扱う方々等を対象に木の見分け方や基本的性質、木造建築に関する実践的な知識、日本の林業のほか環境問題や木材需給等の学んでいただくため、下記により木材アドバイザー養成講習会を開催します。この講習会は、(公社)日本建築士会連合会のCPD認定プログラムになっています。皆様のご参加をお待ちしております。定員は東京会場が40名程度、大阪会場が40名程度で、日程は以下の通りです。

(東京会場) 令和7年2月7日(金)

9:30~17:20、

2月8日(土) 9:00~16:00

(於) 木材会館(東京都江東区新木場1-18-8)

(大阪会場) 令和7年2月21日(金)

9:30~17:20、

2月22日(土) 9:00~16:00

(於) 大阪木材仲買会館(大阪市西区南堀江4丁目18番10号)

受講料は、25,000円(受講料、テキスト代等を含む)

申し込みの受付は12月1日から

(問合せ)(一社) 全日本木材市場連盟
文京区後楽1-7-12 林友ビル

TEL 03-38818-2906
FAX 03-38818-2907

雑記帳

郊外に住んでいるので車で少し走ると緑地などの柿の実を見て秋を感じられる。公園の柿の木もたくさん実がなっている。放っておいても熟して落ちるだけでもつたないと思うが、勝手に取るわけにもいかない。柿が中国から日本に伝わった歴史は古く、弥生時代の遺跡から柿の種が発見されている。奈良時代には栽培が各地に広がった。当時は渋柿しかなかったが、鎌倉時代に今の神奈川県川崎市で突然変異により甘柿が生まれたといわれている。甘柿は日本原産の果物である。甘柿は江戸時代にヨーロッパに伝わり、その後アメリカに伝わった。アメリカやヨーロッパのスーパードでも甘柿を売っているが、カキと呼ばれ、kakiと表示されたりしている。学名もkakiとなっており日本語がそのまま学名に取り入れられた珍しい例だ。木の材質は硬く、ゴルフクラブのヘッドによく使われたパーシモンは、アメリカ原産の柿の一種だ。木の根元付近の材が反発力が強いので良いとされる。渋柿はタンニンが多く渋くて食べられないが、実は糖度は甘柿より高い。乾燥してタンニンを取り除くと甘い柿になる。会津地方のみならず柿は渋柿だが、焼酎等で渋抜きされ、干し柿ではなく柿のままの食感と甘みが味わえる。江戸時代には將軍に献上され、今も皇室に献上されている。柿はビタミンCやカロテンを含み、二日酔いにも効果があるとされるが、全国の消費量は一人当たり年間4個足らずと少ない。今年はどうも少しこの秋の果物を楽しもうと思う。